

「平成 29 年度 鳥獣害対策講習会 in 虫窪・黒岩・西久保地区」

大磯町では、駆除に依存した鳥獣害対策から脱却し、野生鳥獣を寄せ付けない・増やさない地域づくりを進めるために、地区を単位とした連続講習会を開催しています。平成 29 年度は、イノシシ、シカ等の被害が出ている虫窪・黒岩・西久保の3地区を対象に、下記のプログラムを実施し、正しい知識・ノウハウの学習と、今後の対策に向けた意見集約を進めました。

	実施日・プログラム	概要		
第1回	H29. 6. 25 (日) 座学 + 地域環境点検 (40 名参加)	<ul style="list-style-type: none"> 座学では、イノシシやシカの被害の原因として、人間が動物の「エサ」と「ひそみ場」をつくって、動物を寄せ付け、増やしてしまっていることを学びました。 環境点検では、虫窪地区内を歩いて課題点を見つけ、具体的な対策方法を学びました。 		
第2回	H29. 6. 26 (月) 圃場実習 (36 名参加)	<ul style="list-style-type: none"> 果樹園での電柵設置の実習を行いました。 柵を設置する前に、「畑そのものの改善」が重要であることを学びました。作物と柵の間を人が一人歩ける幅のスペースを設けて動物を寄せ付けにくくするために、樹の剪定や伐採を行いました。 電柵の資材費を安くする方法として、支柱にダンポールを使用しました。また、雑草抑制のために柵下にビニルマルチを敷設しました。 	座学	圃場実習（電柵設置）
第3回	H29. 9. 3 (日) 環境整備の実習 (35 名参加)	<ul style="list-style-type: none"> 動物の「ひそみ場」をなくすための環境整備の実習を行いました。 作業負担を抑えながら効果をあげるために、次の点に留意しました。 <ol style="list-style-type: none"> ①下草の少ない暗い山林は、光のあたる林縁部 1 m 程度を刈払えば林の奥まで見通しが良くなり、動物のひそみ場になりにくい。 ②木をすべて伐採し尽くすのではなく、一部を残すことで日陰をつくり、草の生えにくい状況をつくっておく。 		
第4回	H29. 9. 4 (月) 地域環境の点検 (33 名参加)	<ul style="list-style-type: none"> 虫窪地区内を歩いて課題点を見つけ、具体的な対策方法を学びました。その結果を、環境点検マップにまとめました。（別紙） 柵の設置方法の間違い、現在ひそみ場となっている場所、ひそみ場にしないための防風樹の管理方法、イノシシ・シカの冬場のエサとなる青草を抑える法面管理などを、実際に現場で確認しました。 		地域環境の点検
第5回	H30. 1. 13 (土) 今後に向けた話し合い (32 人参加)	<ul style="list-style-type: none"> この一年間の講習会で学んだ内容を振り返り、地域の課題と対策方法を再確認しました。また、県からドローンを活用した集落環境調査の報告がありました。 ドローンの航空写真を見ながら、地区ごとに話し合いを行い、地域全体で今後どのように対策を進めていくか、意見をまとめました。 	今後に向けた話し合い	話し合い結果の発表

～ 井上雅央 講師 プロフィール ～

京都大学博士(農学)。奈良県果樹振興センター等の勤務を経て、近畿中国四国農業研究センター 鳥獣害研究チーム長を歴任。退職後、島根県、熊本県等でアドバイザーとして継続的に活動。近著に「女性がやればずんずん進む獣害対策」(農山漁村文化協会)。

■主催：大磯町

■協力：JA 湘南、かながわ鳥獣被害対策支援センター、湘南地域県政総合センター環境調整課